



TITLE:

經濟的行爲と道德的行爲との關係 (十一)

AUTHOR(S):

田島, 錦治

CITATION:

田島, 錦治. 經濟的行爲と道德的行爲との關係(十一). 經濟論叢 1919, 9(3): 374-387

ISSUE DATE:

1919-09-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127572>

RIGHT:

京都帝國大學經濟學會 經濟論叢

第九卷 第三號

大正八年九月一日發行

論說

農家者流の經濟思想……………

法學士
文學士

小島祐馬

住居税の利害と高級住居税の提案……………

法學博士

神戸正雄

經濟的行爲と道德的行爲との關係……………

法學博士

田島錦治

社會政策上より觀たる吾國の財政……………

法學博士

小川郷太郎

時事問題

同盟罷業の頻發……………

法學博士

戸田海市

朝鮮統治の根本問題……………

法學博士

山本美越乃

銀行の字形引受制度……………

法學士

大森研造

雜錄

米價の高低と一般物價の高低……………

法學博士

河田嗣郎

社會問題評論(二)……………

法學博士

神戸正雄

和田垣、内田兩博士の永眠を悼む……………

法學博士

神戸正雄

京都帝國大學經濟學部規程●經濟學部大正九年度授業擔當

經濟的行爲と道德的行爲との關係 (十二)

田 島 錦 治

第十六節 報恩主義を論して財の分配と

道德との關係に及ぶ

夫れ企業の任務は三生産要素を適當に結合して以て生産の功を奏するに在り故に企業は常に財の生産上に於て重要なものみならず其分配上に於ても亦大關係を有す蓋し企業者の中には自己所有の土地資本と自己及び家族の勞力とのみを以て生産を爲す者あり例へば自作農又は或小工業主に於て往々之を見る斯の如き場合に於ては分配問題は重要ならず然れども現時の社會に於ける企業者特に大規模の商工業を營む者は常に自己所有の土地資本を使用するのみならず一層多大なる他人の土地資本を借用し又多數の勞働者を雇ひ入れて之を使役す從て彼は其借用せる土地又は資本に對しては地代又は利子を支拂ふを要し其雇ひ入れたる勞働者に向ては勞賃を支拂ふを要し而して生産物の價格の總額より此等の支拂額を控除して得たる餘剩即ち利潤は即ち彼の所得となる故に企業者は常に生産主宰者たるのみならず兼て分配仲介者なりとす

蓋し企業者の私人經濟上より立論すれば勞賃利子地代は彼の生産費にして形式上彼の資本より支拂はれ而して彼の生産物總價格より此等生産費を控除して得たる餘剰は即ち彼の利潤（一層精確に言はば總利潤gross profit）を成すべしと雖も社會經濟上より觀るときは勞賃利子地代利潤の四者は勞働者資本主地主企業者の四階級の協力に由りて得たる社會的生産物に對する彼等の分前に外ならず蓋し企業者は通常其企業上の危險の唯一負擔者として往々此危險に出遇ひて損失を蒙むり之が爲めに其先拂したる地代利子又は勞賃の全部又は一部を補填する能はさることあるべし然れども一般的巨久的に觀察すれば損失者は寧ろ少數の例外にして多數の企業者は少くとも正常的利潤（normal profit）を得而して經濟學者の謂ゆる限界的企业者（marginal entrepreneur）即ち毫も利潤を得ず又損失をも負はざる徒輩は假令實際に存在すとも決して總企業者の大部分を成す者に非す何となれば若し損失企業者又は限界的企业者か多數を占めんか國民經濟は退步逆轉せざるべからざればなり然らば現時文明的諸國に於ける國民經濟の長足なる進歩は余の説の謬らざるを證明するものと謂ふべきなり之を要するに現時文明諸國に於て地主資本主企業者勞働者の各自の所得を成す所の地代利子利潤勞賃の四者は彼等の協力に由りて得たる社會的生産物より實質上分配せらるゝものなるは毫も疑を容れず

余は本節に於ては前節『企業の經濟的及び道德的性質』を論したる後を受けて生産主宰者として

の企業者より一轉して分配仲介者としての企業者に論及し更に進みて財の分配と道德との關係を説明し以て本論を畢らむと欲す

夫れ財の分配とは何ぞや曰く通俗的意義に従へば往々財貨を一の場所より他の多くの場所に配達し又は一人の手より他の多くの人の手に渡すことを指して謂ふことあり例へば彼の農業工業等を指して生産業と呼ぶに對して商業運搬業を分配業と謂ふの類は是なり然れども經濟學的意義に於て財の分配とは財か國民の各階級間に分割せられ所有せらるゝ狀態を指す而して更に之を詳説すれば經濟學的財の分配は又二箇の意義を有し隨て二箇の問題を生ず第一の意義は社會の財産及び所得か各個人及び各家族の間に分割所有せらるゝ狀態を謂ひ之に關して貧富の問題を生ず第二の意義は生産せられたる財か生産に協力したる各經濟階級間に分割せらるゝことを謂ひ之に關して地代利子勞賃利潤の問題を生ず此二問題は固より別箇の問題なれども亦互に相關聯す蓋し現時文明諸國に共通とも謂ふべき事實は土地の兼併資本の集中企業の合同にして隨て地主對小作人及び企業者對勞働者の問題は殆んど富者對貧者の問題と一致するに至りたり

余は本論文に於ては此等二問題に亘りて詳論する能はす余は唯概括的に財の分配を支配する及び支配せしむべき一大主義を論して以て余か前節の末尾に約束したる所を果さんと欲す其一大主義とは何ぞや曰く報恩主義即ち是なり

抑も報恩又は報德といふ詞は元來倫理又は宗教の教義に屢々現はれ老子は『爲無爲、事無事、味無味、大小多少、報怨以德』老子爲無爲章第六十三といひ孔子は『以直報怨、以德報德』(論語憲問第十四)といひ釋迦は父母の恩國王の恩衆生の恩三寶の恩(佛、法、僧)の四恩を説き(心地觀經報恩品)孟子も亦『推恩、足以保四海、不推恩、無以保妻子』(孟子梁惠王篇)といへり要するに報恩といひ報德といふも同意義にして其何れを探るも可なり請ふ余をして此報恩主義か財の分配を支配し及び之を支配せざる可からざるの理を茲に説明せしめよ

余思ふに恩に自然の恩あり父祖の恩あり社會民衆の恩あり國家の恩あり先覺の恩あり吾人か財を生産し及び交易するに方りては必ず此等の諸恩を承く是故に吾人か財を分配し及び消費するに方りては此等の諸恩に報ゆる所なかるへからず第一自然の恩に就ては余既に第十二第十三の兩節に亘りて詳論したるか故に再び贅せず但し此兩節に述へたる所は主として財の生産上より論したるを以て茲に分配上の見地より補説する所なかる可からず夫れ自然の恩德は廣大なれども自然は緘黙して報を責めざるか故に吾人は往々其恩德を誤用し濫費する事あり土地森林鑛山の私有を許す國特に此等か少數者に獨占せらるゝ國に於て荒廢濫伐濫堀等の弊に陷る甚た多きを見る斯の如きは自然の恩に報ゆる所以の道に非ず且又國家の恩父祖の恩をも忘るゝ者と謂ふべきなり米國人ホウエ氏の近著に曰く『今より五十年前に於て英國の農村に使役せられたる人民は二百十三

萬二千人なりしか今日に於ては百五十萬人あるのみ即ち五十年間に於て六十萬人は農村より減員したり而かも土地は肥沃にして且穀物の價格は貴きにも拘はらず此等の土地は狩獵地となりたり
 2] (F.C.Howe, Why War. New York, 1916, page 37) 夫れ國法の保護に依りて所有する土地、父祖が開墾したりし土地、多數の農夫が小作し來りたる土地を適當に利用せずして地主の奢侈的欲望を滿すへき狩獵地に變すること斯の如きは啻に自然の恩を忘るる不道德的行爲なるのみならず國家の恩父祖の恩及び社會民衆の恩をも忘るる者と謂ふべきなり

リカルドー氏は其謂ゆる經濟的地代 (economic rent) を以て土地の原始的不滅的生產力の差等より生ずと爲す今此説を正當と認むるも其結論として地主か此經濟的地代を全然領取すへきものなりと謂ふを得ず蓋し現時の文明諸國に於て借地人か地主に對して實際支拂ふ所の地代は經濟的地代の外に利子利潤をも含むへし今即ち地主か土地に授下したる資本の利子及び土地の管理に要する費用を含むことあるへし暫く此等の利子利潤を度外に措き單に經濟的地代に就て見るに地主の之を領取するは固より自然の恩恵と國法の保護とに基つくは論を俟たされども尙看過すへからざるは社會民衆の恩徳是なり現時文明諸國に於ては人口は益々増加し社會は愈々進歩し經濟は發達するか爲めに地代は益々騰貴し地價は昂上す隨て地主は勞せずして愈々其所得を増加し其財産を増殖す都會及び其附近の土地に於て特に此趨勢の顯著なるを見る夫れ斯の如く地主は自然の恩國

家の恩及び社會民衆の恩を受くること甚大なるか故に之か報恩に留意すべきは當然なり即ち土地（及び其他の自然）を適當に完全に利用するを勉め之より生ずる所得は成るべく多く土地の改良國家の一般經費の負擔及び社會民衆の公益に贖出することを心掛けざるへからず國家又は地方團體か其公共的事業を遂行するか爲に必要とする土地（又は其他の自然）を收用せんとするに當り地主（又は其他の自然力の私有者）か之を寄付し又は相當以下の價格を以て買収に應ずるは亦報恩の一端に外ならず地租土地増價税特別賦金（special assessments）の如きは地主をして直接に國家及び地方團體に對して報恩せしめ間接に社會民衆に對して報恩せしむるものなり而して地主か借地人小作人に對し寛大なる條件を以て其土地を使用せしめ思むべき社會問題の發生なからしむるは是亦地主の直接に社會民衆に對する報恩と謂ふべきなり

第二社會民衆の恩に就ては吾人は現時の分業及び交通の盛に行はる處に於て之を感ずること甚大なり夫れ吾人は或は耕さずして食ひ或は織らずして衣、築かすして住ひ陶冶製作せずして百般の器物を得、坐から四方の財貨を享くるを得、勞せずして身を千里の遠きに運ふを得るは實に分業及び交通の賜なり故に一業に服する者は他の萬業に分服する社會民衆の恩を感ず故に一勞働者又は一企業者は他の總ての勞働者及び他の總ての企業者の恩を感ぜざるを得ず蓋し社會は一有機體なり社會を組織する人類は種々の職務を分掌して互に相輔くるのみならず總て社會に隸屬して

社會を進化せしむることに努力す社會を進化せしむるは健全なる社會の意思なり即ち各個人の意思の綜合ならざるへからず而して此意思は實に先覺者に由りて啓發せられ國家に由りて督厲せられ吾人の父祖に由りて慣行せらる然らば則ち現時の分業交通の制度及び之に伴ふ企業者對勞動者及び地主對借地人の關係の如き若し此等が社會進化の大勢に背馳せすして之に順應するの力あるを確信すへき理由あるに於ては決して之を破壊し變革し去るへきに非ず而して余の見る所を以てするに此等をして一層多く社會進化の大勢に順應せしむるの道は他なし企業者勞動者地主資本主の各自をして深く社會民衆の恩を感じて之に報ゆるの實を擧げしむるに在るのみ今重に企業者對勞動者の關係に就て此點を論せん

夫れ報恩は更に分ちて個別的報恩と合衆的報恩との二と爲すを得へし貨物を買ふて價を拂ひ人を雇ひて勞賃を給し又は勞賃に對して勞働を供し借金に對して元利を支拂ふの類は個別的報恩なり然れども現時の分業協力の盛に行はる經濟社會に於ては斯の如き個別的報恩は決して完全なるものに非ず各企業者は其勞動者に對し又各勞動者は其企業者に對し各々個別的報恩を爲す以外に企業者全體は勞動者全體に對し又勞動者全體は企業者全體に對し合衆的報恩を爲すを要す蓋し烏合の衆は統一せる隊伍に若かず經濟の事亦然り故に現時の分業及び協力の盛に行る、產業界に於ては孤立せる企業者よりは合同せる者は勞動者全體に對して便宜を與ふこと多く又孤立せる勞動

者よりは團結せる者は企業者全體に對して利益を與ふこと大なるへし然らば企業者全體は勞動者全體に對して如何なる方法を以て其合衆的報恩の實を擧ぐ可きかといふに是に直接なる方法と間接なる方法とあり間接なる方法とは企業者全體が富裕階級として一般慈善事業に出資盡力し又は國家の財政特に租稅政策に關しては貧民に偏重の負擔となるか如き間接稅を捨て、衡平主義に合する累進的直接稅を取ることを贊成するか如きは是なり直接なる方法とは或は企業者團體が合意的に一般勞動者優遇の道を講じて互に之を實行し或は工場法勞動者保險法の如き國家の法律を遵奉して敢て違背すること無きか如きは是なり

苟も企業者團體にして斯の如き態度に出んか謂ゆる『德に報ゆるに德を以てす』との金言の如く勞動者團體に對する態度も亦同様ならざるを得ざるへし勞動時間の短縮は時間勵行及び周約的勞動を以て酬みられ勞賃の増加は勞動能率の増大を以て報みらるへし企業者か勞動者に對する彼の如く勞動者か企業者に對する又此の如くなるときは啻に此等兩階級が互に其恩德を享くるのみならず一般社會民衆も亦其利福を受けて國家の安寧秩序は増進すへし由是觀之企業者及び勞動者相互の合衆的報恩は更に國家及び社會民衆に對する合衆的報恩となるや明かなり

然れども現時文明諸國の實際を見るに往々反對の事實を繰返しつゝ、あり企業者合同は唯其階級の私利を増進せんか爲めに勞動者を抑壓せんとし勞動者團體は之に對抗して亦其階級の私利を擁

護せんと勉む是に於てか一般解雇同盟罷業ボイコット等の如き忌むべく恐るべき労働爭議は日に萌し月に起りて底止する所を知らず爲めに一派の學者論客をして階級的闘争を以て人性に本つき人民の生活を終始支配する所の正常的事實なりと思考せしめ此闘争に打勝ちたる者こそ社會の選優なれ故に吾人は常に社會の選優たるの覺悟を以て其屬する階級の爲に奮闘して敵を殲さるへからずと論議せしめたり

嗚呼亦謬れり語に言はすや小人は利に喻り君子は義に喻ると此説の如きは蓋し亦利に喻るの類のみ夫れ人は萬物の靈にして其性は本善なり父子相愛するは人の本性なり而して時ありてか争ふ兄弟相和するは人の本性なり而して時ありてか闘く四海は同胞なり而して時ありてか戦ふ資本と労働との關係の如き企業者と労働者との情誼の如き亦然り協調は其常態なり又其常態ならしめざる可からず譬へは海洋の水の如し卑近より見れば波濤常に起りて平かならずと雖も高遠より望まは水面は常に水平を保つへし水平を保つは水の性なり而して風潮之を亂す波浪の起るは畢竟水平の本性に復せんか爲のみ人類の闘争も亦然り争はんか爲に争ふには非ず畢竟平和に反らんか爲に争ふなり然らば則ち階級的闘争を以て人の本性に出て其生活を終始支配する所の正常的事實なりとするの説は畢竟皮相の謬見たるを免かれざるなり

抑も經濟學者又は倫理學者か人の行爲を論するに方りては(第一)是は斯様なり (what is) の

點を究め更に進みて(第二)是は斯様にせざるへからず (what ought to be) の點を論ずるを要す故に余は企業者と労働者との情誼を論ずるに方り(1) 協調は常態なり(2) 又其常態ならしめざる可からずと斷論したり今假りに自歩々譲りて階級的闘争か常態なりとするも各階級をして未來永劫闘争を續けて共に疊るゝに終らしむ可しと説く者は狂人の外には無かる可し況んや實際に於て謂ゆる階級的闘争なる者は決して總ての企業者及び總ての労働者の間に四六時中絶えず行はるゝ事實に非ずして産業界の中には曾て労働爭議の何物たるを知らざる方面も亦渺からず而して労働爭議の起りたる又は將に起らんとする場合に於て和解仲裁等の平和的方法を以て協調に歸したるもの年々其多きを加ふるに於てをや然らば則ち社會主義者又はサンデカリスト等が企業者對労働者の窮極的協調は到底不可能なりと憶斷して労働者階級をして階級的闘争に打勝ちて竟に凱歌を奏せしめんことを謀るは皆に『是は斯様なり』の點を誤解せるのみならず『是は斯様にせざるへからず』の點をも謬論したるものと謂ふへし

若し果して階級闘争が人の本性に出てたる人生々活の正常的事實にして此闘争に打勝つことか人生の眞の目的なりとせば一旦闘争に打勝ちたる階級は更に又新なる闘争的階級に分裂せざるを得ずして人類は未來永劫其禽獸的境遇を脱却する能はざるへく之に反して余輩の主張する如く協調は人の本性に出てゝ人生々活の正常的事實を成し時々紛争は畢竟協調の水平に反らんか爲め

に起る波瀾に過ぎずとし且吾人は合衆的報恩の主義に依り各階級間に於ける偏見妄執の苦界を脱して合衆的協調の樂園に入らざるへからずとする時は吾人の前途は常に光明に満ちて生活の一步か高尙優美の域に進みつゝあるを覺ゆへきなり

第三父祖の恩先覺の恩及び國家の恩に就て尙述ふる所あらむ是等は吾人か資本を所有し又は使用し勞働を爲し及び企業を行ふに於て常に同時に感ずる所のものなり夫れ資本は天地開闢以來父祖の勞作節用に由り先覺の發明發見工夫に由り國家の保護獎勵に由りて漸々蓄積せられたるものなり例へば吾身は吾身にして吾身に非ざる如く吾資本は實に父祖先覺國家の賜なり夫れ資本に固定資本と流動資本あり流動資本は急劇に消費せられ固定資本と雖とも早晚消費せらるゝと雖前の資本は後の資本を生みて絶えざること吾人の血統の如く且資本の量質は其代を更ふる毎に増大す經濟學者は資本は生産と貯蓄とに由りて成立すと説明す而して余は此生産と貯蓄とか父祖に由り先覺に由り國家に由ることを深く感ずる者なり又資本に公有資本と私有資本とあり公有資本は國民全般の公益目的に供せらるゝか故に吾人は此資本の使用に對して國家の恩を感ずること大なり私有資本は亦國家の私有財産法の保護を受くる故に其所有者か此國恩を忘るゝへからざるは勿論なり而して國法か資本の私有を認めたるは先覺の學說經驗に基づき社會の必要便宜に應じたるものなるを以て國家は絶えず時世の變遷に注意し又其當時の先覺の説に聽きて時と處とに従ひて適

宜の政策を執るを要す而して資本私有者に於ても其資本は自己の物にして實は自己の物に非ざるを思ひ國家の恩に報するに躊躇せざる可きなり。晚近森林鐵道及ひ其他の交通機關或種類の鑛山工業特に自然的獨占業に屬する資本が漸く私有より公有に遷るの傾向諸文明國に顯著なるは頗る注意すべき事に屬す。

勞働者の堪能は父祖の遺傳に由ること多し謂ゆる日本魂英人の紳士氣質佛人の都雅蘭人の執拗獨人の堅忍米人の冒險の如きは祖先の遺傳を經とし國家及び先覺の教育指導を緯として永き歲月の間に織り成されたるものなり然らば勞働者並に之を使役する企業者は此父祖の恩先覺の恩國家の恩を絶えず感して之に報ゆるを心懸けざるへからず而して之に報ゆるの道は他なし教育衛生及び勞働保護の制度を完全にして勞働者を精神的並ひに肉體的に優良ならしむるに在るなり企業者自身の人格を向上せしむることも亦同じ而して此等に要する費用は勞賃及び利潤の中より分に應じて騰出するを要す。

第四。最後に國家の恩に報ゆる方法に就て更に述ふる所あらむ余は前段に於て國家の恩を他の諸恩と關聯して述べたること一再に止まらず但し之に報ゆる積極的方法に就ては未だ其意を悉さざるを憾む蓋し吾人の國家に對する報恩は國民たるの本分を全するに在るは論を俟たずと雖經濟的兼道德的行爲としての積極的報恩方法は納税より重大なるは無し余は先づ斷論す租税の納付は人

民の國家に對する報恩なりと。

財政學者若し此斷論を聞かは必ず笑はすんは擧するならむ然らすんは余に論して言はん子は猶ほ時世後れの報償主義を墨守するやと夫れ謂ゆる報償説 (compensatory theory) なるものは各人民は其國家より受くる所の利益恩恵に比例して租税を負擔すへきものなりとす然れども國家か人民に與ふる所の利益恩恵は一般的に及ふへきものにして決して各個人に就きて其價額を計算し得へきに非ず故に此説の誤れるは多く論するの要なし余は前段に於て報恩に個別的と合衆的との二種あることを述べたり國家か人民に與ふ所の恩徳は一般人民に及ふへきもの即ち合衆的なり隨て人民か國家に對する所の報恩も亦合衆的ならざる可からず換言すれば人民は其能力に應じ共同一致して國家の費用を負擔すへきなり舊報償説の如きは國家と人民との關係を以て賣手と買手又は貸手と借手との如き個別的相互的となす是れ其謬れる所以なり然れども人民か國家に對する關係に於て亦個別的報恩主義を實行し又は加味すへき場合あることを忘るへからず例へば各種の使用料手數料を納むる場合及び郵便電信鐵道等の料金を支拂ふ場合の如きは是なり

以上説明したる所を要約すれば國民か生産したる所の財貨は地代利子利潤として國民の間に分配せられ更に租税手數料料金等として國家及び地方團體の經費に供せらる而して此分配行爲を支

配する及び支配すべき一大主義は報恩主義特に合衆報恩主義なり而して此主義たるや當に財の分配を支配するのみならず凡そ吾人か財を生産し交易し及び消費するに方りても常に吾人を指導し扶掖し吾人の經濟的行爲をして道德的行爲と合致せしめ小利を推して大利と爲し小善を擴めて大善と爲し吾人をして當に物質的に於てのみならず精神的に於ても亦向上發展せしむる所のものなり孔子曰く吾道は一以て之を貫くと曾子は曰く夫子の道は忠恕のみと而して孟子は曰く恩を推せば以て四海を保つに足ると忠恕といひ推恩といひ又は報恩といふも實は一に歸す近頃社會連帶(solidarity)の主義を唱ふる者あり其說頗る余輩の意を獲たり然れども余竊かに思へらく是れ龍を畫いて未だ晴を點せずと敢て之か爲め晴を點せん乎他なし合衆報恩の一語是なり(完結)